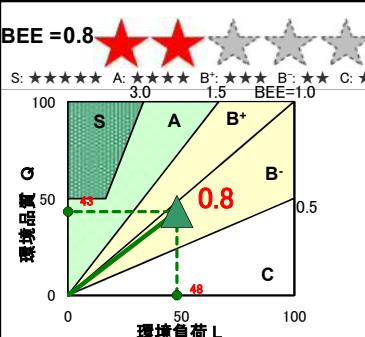
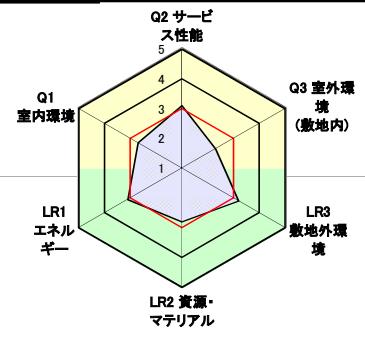
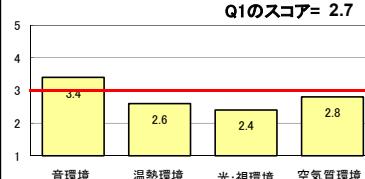
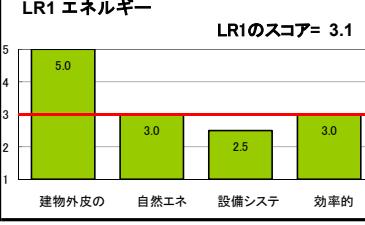
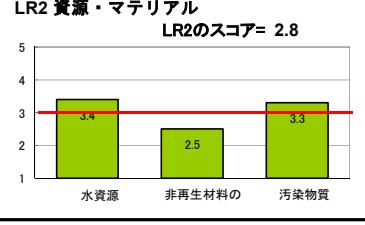
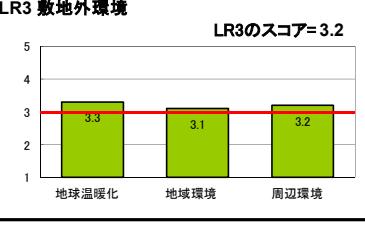


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岩田レーベル IPプロジェクト新築工	階数	地上2階
建設地	愛知県一宮市42-1、38-1、10-1、廃構造		S造
用途地域	市街化調整区域 指定なし	平均居住人員	110 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,085 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年9月14日
敷地面積	12,495 m <sup>2</sup>	作成者	株エネ・グリーン寺川幸子
建築面積	3,148 m <sup>2</sup>	確認日	2017年9月14日
延床面積	6,953 m <sup>2</sup>	確認者	株エネ・グリーン定森淳一

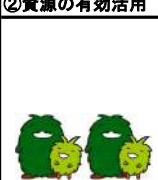
  

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
<b>BEE = 0.8</b>					
		<b>標準計算</b>			
		①参照値	100%		
		②建築物の組み合わせ	92%		
		③上記+②以外の	92%		
		④上記+	92%		
		138 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )			
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参考値）と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです					

2-4 中項目の評価(バーチャート)	
<b>Q 環境品質</b>	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>
<b>Q1のスコア= 2.7</b>	<b>Q2のスコア= 3.1</b>
	
<b>Q のスコア= 2.7</b>	
<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>	<b>Q3のスコア= 2.3</b>
	
<b>LR 環境負荷低減性</b>	
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>
<b>LR1のスコア= 3.1</b>	<b>LR2のスコア= 2.8</b>
	
<b>LR のスコア= 3.0</b>	
<b>LR3 敷地外環境</b>	<b>LR3のスコア= 3.2</b>
	

3 重点項目	
<b>①地球温暖化への配慮</b>	<b>③敷地内の緑化</b>
	
<b>3.3</b>	<b>2.0</b>
<b>外構緑化指標(外構緑化面積/外構面積)</b>	
34.7 %	
<b>建物緑化指標(建物緑化面積/建築面積)</b>	
0.0 %	
<b>②資源の有効活用</b>	<b>④地域材の活用</b>
	
<b>2.9</b>	<b>1.0</b>
<外装材に使用した地域性のある材料>	
なし	
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	
なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 ① 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 ② 耐用性・信頼性、Q-2 ③ 対応性・更新性

LR-2 ② 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 ③ 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指標} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)} \times 100}$$

$$\text{建物緑化指標} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート	実施設計段階	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部・居・宿泊部・住居・宿泊部分						全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>						0.35				2.7
<b>1 音環境</b>				3.4	0.15					2.7
<b>1.1 室内騒音レベル</b>				3.0	0.40					3.4
<b>1.2 遮音</b>			T-2	4.2	0.40					
1 開口部遮音性能				5.0	0.60					
2 界壁遮音性能				3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-					
<b>1.3 吸音</b>				3.0	0.20					
<b>2 溫熱環境</b>				2.6	0.35					2.6
<b>2.1 室温制御</b>				2.7	0.50					
1 室温				3.0	0.38					
2 外皮性能				2.0	0.25					
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38					
<b>2.2 湿度制御</b>				2.0	0.20					
<b>2.3 空調方式</b>				3.0	0.30					
<b>3 光・視環境</b>				2.4	0.25					2.4
<b>3.1 曜光利用</b>				3.0	0.30					
1 曜光率				3.0	0.60					
2 方位別開口				3.0	0.40					
3 曜光利用設備				1.0	0.30					
<b>3.2 グレア対策</b>				1.0	0.30					
1 曜光制御				1.0	1.00					
<b>3.3 照度</b>				3.0	0.15					
<b>3.4 照明制御</b>				3.0	0.25					
<b>4 空気質環境</b>				2.8	0.25					2.8
<b>4.1 発生源対策</b>				3.0	0.50					
1 化学汚染物質				3.0	1.00					
<b>4.2 換気</b>				3.0	0.30					
1 換気量				3.0	0.33					
2 自然換気性能				3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮				2.0	0.20					
<b>4.3 運用管理</b>				3.0	0.50					
1 CO <sub>2</sub> の監視				1.0	0.50					
2 喫煙の制御				-	-	-	-	-	-	3.1
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	-	-	2.8
<b>1 機能性</b>				2.8	0.40					2.8
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				3.0	0.40					
1 広々・収納性				3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33					
3 バリアフリー計画	独自	条例を満たす		3.0	0.33					
<b>1.2 心理性・快適性</b>				2.3	0.30					
1 広々感・景観 (天井高)				3.0	0.33					
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33					
3 内装計画				1.0	0.33					
<b>1.3 維持管理</b>				3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>				3.1	0.31					3.1
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>				3.0	0.48					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				3.2	0.33					
1 駆体材料の耐用年数				3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23					
<b>2.4 信頼性</b>				3.2	0.19					
1 空調・換気設備	②	中央監視システムにより災害時に設定区画で停止可能		4.0	0.20					
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20					
3 電気設備		発電機あり、電源設備等R階設置の為浸水の危険性なし		3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20					
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、精密機器R階設置の為浸水の危険性なし		3.0	0.20					

③ 対応性・更新性	②	階高4.0~4.8m 壁長さ比=0.20 生産エリア積載荷重4900以上、食堂・階段2900	3.8	0.29		-	3.8
			4.6	0.31		-	
			5.0	0.60		-	
			4.0	0.40		-	
			4.0	0.31		-	
			3.0	0.38		-	
			3.0	0.17		-	
			3.0	0.17		-	
			3.0	0.11		-	
			3.0	0.11		-	
			3.0	0.22		-	
			3.0	0.22		-	
Q3 敷地外環境(敷地内)			-	0.35		-	2.3
1 生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.63、BEI <sub>m</sub> =0.89	5.0	0.15		-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.24		-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.5	0.36		-	2.5
4 効率的運用			3.0	0.24		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			-	-		-	
4.1 モニタリング			-	-		-	
4.2 運用管理体制			-	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		節水便器、自動水栓採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.63		-	2.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	② 独自		3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水プライマー	4.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	
3 冷媒			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.2
1 地球温暖化への配慮	①	高効率の設備採用	3.3	0.33		-	3.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	独自		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	独自	充実した駐車場、駐輪場	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		搬出が容易な廃棄スペースあり、工場生産エリア内ゴミ箱設置	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音	独自		3.0	1.00		-	
2 振動	独自		-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制			3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制			-	-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.10	外構緑化:34.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{（評価点} \times \text{全体に対する重み})}{\text{重みの総和}}$   
重点項目スコア=重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計 + 1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 岩田レーベル IPプロジェクト

計画上の配慮事項	
総合	高効率な設備を採用し、省エネルギーに考慮した計画。
Q1 室内環境	開口部遮音性能の高い建具を採用。事務所：業務室の昼光率の確保に努めている。工場：照明のリモコン制御や人感センサーの採用。
Q2 サービス性能	天井高さを高く設定し、快適な空間づくりに努めている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽を多く使用し、外部道路側だけでなく、室内(事務室・食堂・休憩室)からも植栽の彩りを楽しめるような空間を形成している。
LR1 エネルギー	建築物の高い外皮性能。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器の採用。
LR3 敷地外環境	駐車場だけでなく、駐輪場・バイク置場を充実させている。環境に考慮した照明計画。
その他	